

# しろいし 市議会だより

**【表紙写真】**

9月26日(土)、「こじゅうろうキッズランド」「おもしろいし市場」「みのりキッチン」の3施設で構成する「しろいしSunPark(サンパーク)」のグランドオープン記念式典が開催されました。



- 2~3P 9月定例会の概要・審議した議案
- 4~5P 決算審査特別委員会・議案の賛否一覧
- 6P 予算審査特別委員会
- 7~12P 市政に対する一般質問(11名)
- 13~14P 討論
- 15P 意見書・8月臨時会
- 16P 人事・議案の賛否一覧・編集後記



おもしろいし市場では、新米のおにぎりが振る舞われました。



みのりキッチンでは、たくさんの体験プログラムが開催されました。

# 9月定例会

## 令和元年度決算を認定 一般会計補正予算など13議案可決

令和2年9月定例会は、9月3日から9月18日までの16日間の日程で開催されました。市長提出議案は、人事2件、令和元年度各会計決算の認定2件、条例2件、令和2年度各会計補正予算5件の計11件でした。

定例会初日、第69号議案及び第70号議案が提案され、第69号議案は質疑の後、採決の結果、賛成多数で同意、第70号議案は採決の結果、全会致で同意しました。

2日目、第71号議案及び第72号議案の質疑が行われ、決算審査特別委員会に審査が付託されました。

3日目、第73号議案から第79号議案の質疑が行われ、条例2議案は採決の結果、全会致で原案のとおり可決、予算5議案は、予算審査特別委員会に審査が付託されました。

一般質問は、9月16日と9月17日の2日間で、11名の議員が質問を行いました。定例会最終日の本会議において、各委員長報告を行なった後、第71号議案については、反対及び賛成の討論があり、採決の結果、賛成多数で認定され、残る議案については、全会致で原案のとおり可決しました。

また最終日に、市長提出議案2件(第80号議案及び第81号議案)が追加提案され、採決の結果、全会致で原案のとおり可決しました。

同日、議員提案による議案2件(議提第7号及び議提第8号)が上程され、提出議員による提案理由の説明を経て、議提第7号は全会致で原案のとおり可決、議提第8号は質疑の後、採決の結果、賛成多数で可決されました。



市長の提案理由説明

審議した議案の主なものは次のとおりです。

### 条例等

#### ◎白石市公共下水道事業 公共ます設置分担金条例

公共下水道の供用開始後において、新たに公共ますが必要となる場合の多くが、土地の所有者の都合によるものであり、利益を受ける者が限定されることから、設置する際

の費用の一部を受益者から分担金として負担してもらうよう、条例を制定するものです。

●分担金額  
1カ所あたり15万円

#### ◎災害用備蓄品(避難所用 パーティション、避難所用 段ボールベッド)購入契約 の締結について (定例会最終日提案)

新型コロナウイルス感染症拡大で落ち込む景気対策のため消費税5%への減税を求める意見書

議案番号	件名	審議結果
第69号	市長提案 教育委員会委員の任命について	同意
第70号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	同意
第71号	令和元年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
第72号	令和元年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定について	認定
第73号	白石市公共下水道事業公共ます設置分担金条例	原案可決
第74号	白石市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	原案可決
第75号	令和2年度白石市一般会計補正予算(第5号)	原案可決
第76号	令和2年度白石市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決
第77号	令和2年度白石市介護保険特別会計補正予算(第3号)	原案可決
第78号	令和2年度白石市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	原案可決
第79号	令和2年度白石市下水道事業会計補正予算(第2号)	原案可決
第80号	災害用備蓄品(避難所用パーティション、避難所用段ボールベッド)購入契約の締結について	原案可決
第81号	令和2年度白石市一般会計補正予算(第6号)	原案可決
議員提案	新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書	原案可決
議員提案	新型コロナウイルス感染症拡大で落ち込む景気対策のため消費税5%への減税を求める意見書	原案可決

### 9月定例会で審議した議案

災害用備蓄品(避難所用パ  
ーティション、避難所用段ボ  
ールベッド)購入契約の締結につ  
いて、条例の規定に基づき議会  
の議決を求めるものです。

●契約の方法

条件付一般競争入札

●契約の金額

2千209万8千10円

●契約の相手方

東洋安全防災株式会社  
仙台営業所

予算

◎令和2年度白石市一般会計  
補正予算(第5号)

これまでの歳入歳出予算に  
それぞれ5億3千199万7千円  
追加し、予算総額を197億1千  
811万7千円とするものです。  
主な内容は次のとおりです。

○地域おこし協力隊を活用し  
た関係人口促進事業  
1千280万円

○スパシユランドしろいし  
設備改修調査事業  
363万円

○ホワイトキューブZEB化  
推進改修事業  
3億3千612万4千円

○オンラインによる妊産婦等  
相談事業  
292万円

○新型コロナウイルス農林業  
災害対策資金利子補給補助  
事業  
20万7千円

○森林経営管理推進事業  
631万4千円

○スマートインターチェンジ  
整備事業  
550万5千円

○道路維持補修費(除雪関連  
経費)  
5千997万円

○寄附金を活用した教育環境  
整備事業  
200万円

○公共土木施設災害復旧事業  
1千850万円

本会議質疑より

◎白石市公共下水道事業  
公共ます設置分担金条例

〔質疑〕土地所有者の都合によ  
る新たな公共ますの設置と  
は、年間どのくらいあるのか  
伺う。

〔答弁〕新たな公共ますの設置  
状況は、令和元年度で2カ所、  
平成30年度で12カ所、平成29  
年度で9カ所である。

〔質疑〕公共ます設置により利  
益を受ける者が限定されると  
は、どのような場合なのか伺う。

〔答弁〕土地の所有者が新たに  
分筆して土地を売買するなど、  
新たに下水道を接続する場合  
に公共ますの設置が必要であ  
ることから、それに対し分担金  
を負担していただくこととする  
ものである。

◎令和元年度白石市一般会計  
及び特別会計歳入歳出決算  
の認定について

〔質疑〕令和元年度決算は、一般  
会計で実質単年度の収支が3  
億3千400万円余の黒字となっ  
た。このことについて、どのよ  
うな分析をされているのか伺  
う。

〔答弁〕令和元年度は、しろいし  
サンパークの整備をはじめとす  
る地方創生事業や子育て支援  
事業、また、台風19号による災  
害復旧事業などに一丸となって  
取り組んだ。

歳入面では、ふるさと納税寄  
附金が前年度と比較して約9  
倍のおよそ5億6千400万円と  
大幅に増加し、また固定資産税、  
普通交付税が増加したこと

より、基金からの繰入金が大幅  
に減少した。

特にふるさと納税寄附金の  
増加は、本市に関心を持つ方が  
大変多いことを改めて実感で  
きたものであり、第五次白石市  
総合計画に示す「人暮らし環  
境が活きる交流拠点都市づく  
り」を実現するための白石市ま  
ち・ひと・しごと創生総合戦略  
にのっとりた各種施策を確実に  
実行した成果が表れたものと  
考える。

〔質疑〕ふるさと納税寄附金が  
大幅に増加した要因を伺う。

〔答弁〕ふるさと納税をされて  
いるのは女性が多いことから、  
ターゲットを絞り込み、女性か  
ら選ばれるような返礼品のラ  
インナップを増加したこと、ま  
た、ポータルサイトの拡充など、  
さまざま媒体を使って露出  
を増やしたことが好結果につ  
ながったものと考ええる。

また、なるべく簡単に手続き  
ができるような仕組みについて  
も検討した結果であると考え  
ている。

◎令和2年度白石市一般会計  
補正予算(第5号)

〔質疑〕ホワイトキューブZEB  
化推進改修業務委託料につ  
いて、3億3千612万4千円計上さ  
れているが、その内容を伺う。

〔答弁〕市の指定避難所である  
ホワイトキューブについて、国の  
補助金を活用し、再生可能エネ  
ルギー設備および高効率設備  
機器を導入することにより、平  
時の脱炭素化に加えて、被災時  
にも必要なエネルギーを供給  
できる施設整備を行うもので  
ある。

具体的には、冷暖房をパッケ  
ージ型のエアコンに、給湯設備  
を電気式のヒートポンプの給  
湯器に替えることで、重油の使  
用を行わない改修を行い、また、  
照明設備をLEDに改修し、太  
陽光発電と蓄電設備を併設す  
る。

このほか、BEMS(ビル・エ  
ネルギー管理システム)を導入  
し、建物内のエネルギー使用状  
況や設備機器の運転状況を把  
握し、最適な機器の運転制御を  
自動で行い、省エネにつなげて  
いくものである。

# 決算審査特別委員会

第71号議案・令和元年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について及び第72号議案・令和元年度白石市水道事業会計及び下水道事業会計決算の認定についての2議案は、定例会2日目(9月7日)の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員(松野久郎)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・四竈英夫、副委員長・高子秀明)は、9月9日及び10日の2日間にわたり審査を行いました。

その結果、第71号議案については、採決の結果、賛成少数で不認定とし、第72号議案については、全会一致で認定しました。審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

## 一般会計

### 総務費

ろ、月350人以上の利用があったことから、一定数の需要があるものと考えている。

〔質疑〕市民バス中心市街地循環便について、これまでの試験運行を通して、今後どのように取り組んでいくのか伺う。

〔答弁〕平成30年10月の試験運行開始時は月の利用者が213人であったが、昨年は11月に新聞折り込みを活用し、無料の乗車券つきチラシを配布したこと

## 民生費

〔質疑〕高齢者タクシー利用助成事業については、65歳以上で要介護3以上の認定を受けた市民税非課税の方を対象に、タクシー料金の一部助成券を交付している。

近年、利用者数が伸び悩んでいると思われるが、どのように分析しているか伺う。

〔答弁〕高齢者タクシー利用助成券は、通院で利用されることが多いが、遠方になるとタクシーが使えないという声もあることから、この制度とは別に、白石市社会福祉協議会への委託事業である、高齢者等地域ささえ愛互助活動支援事業の移動支援サービスにて改善している。

市民の有償ボランティアであるささえ愛互助活動支援事業は、ドライバーの確保が難しいのが現状であるが、専用の車両を確保し、遠距離でも使用しやすくなったことから、利用は増えている状況である。

このように、二つの政策だけではなく、他の視点からも移動支援を支えていきたいと考えている。

〔質疑〕生活保護事業については援助困難なケースも増加傾向にあるとのことだが、相談体制はどのようになっているのか伺う。

〔答弁〕本市の生活保護事業については、不安定な雇用情勢などにより自立に至らないケースも増え、必要とする援助も多種多様化し、援助困難なケースも年々増加傾向にある。

相談体制については、直接相談にあたるケースワーカーの資質向上を図るため、各種研修会などへ積極的に参加させるなど、引き続き本制度の適切な実施と運営に努めたいと考えている。

## 商工費

〔質疑〕東北観光復興対策交付金を活用した事業として昨年度実施した、白石城ステイ事業の今後の取り組みについて伺う。

〔答弁〕東北運輸局との連携事業として国内外の有識者をはじめ、海外メディアによるモニターツアーを行なった事業であるが、木造で復元されたお城で宿泊体験を行う国内初の事業として、新聞、テレビなどマスメディアで数多く取り上げられ、宣伝効果は十分あったと考える。

将来的には、白石城への宿泊体験や文化体験をメインとしたプレミアムな旅行商品として、旅行エージェントによるハイクラスな外国人旅行者の増加を目指す予定であったが、新型コロナウイルス感染症により、海外からの観光客誘致ができない状況であることから、今後の状況に応じて慎重に進めていきたいと考えている。

## 土木費

〔質疑〕市営住宅について、老朽化が顕著になってきているようだが、今後どのように維持管理を進めていくのか伺う。

〔答弁〕現在517戸ある市営住宅のうち、退去後に募集を行わ

令和元年度 一般会計・特別会計決算の状況

[単位：円]

Table with 4 columns: 会計名, 歳入決算額, 歳出決算額, 差引額. Rows include 一般会計, 特別会計, 国民健康保険, 介護保険, 後期高齢者医療, 合計.



ない政策空き家については、ずれ時期を見て解体することも考えている。現状では、入居者からの修繕依頼や募集時に併せた維持管理に重点を置き対応していきたいと考えている。

令和元年度 企業会計決算の収支状況

(消費税相当額を含む) [単位：円]

Table with 3 columns: 会計名, 収益的収入, 収益的支出. Rows include 水道事業, 下水道事業.

Table with 3 columns: 会計名, 資本的収入, 資本的支出. Rows include 水道事業, 下水道事業.

教育費

【質疑】小学校におけるALT(外国語指導助手)活用事業について、その効果を伺う。【答弁】小学校における外国語活動では、英語を聞くこと、話すことを通じて、コミュニケーション能力を養うことを目標としている。

昨年度、市内の小学校において、6年生の全児童を対象としたアンケートを実施した結果、外国語活動の学習内容が分かる、よく分かると感じる児童の割合が増加しており、さらに、外国人と話せるようになりたいという願いを持つ児童が多いことが分かった。

企業会計

【質疑】上下水道事業事務の一部を民間に業務委託したことにより、どのような改善が図られたのか伺う。

このことから、本事業の効果として、日本人の教師より外国人であるALTと話すことで、より自分の思いや考えが伝わったという実感を得ることができていると考えている。また、現場の声として、ALTによる生の正しい英語を聞くことができる効果や、ALTと学級担任が、TT指導(複数の教師による協力的指導)をすることによるきめ細やかな指導ができる効果が挙げられている。

【答弁】これからますます厳しくなる事業環境の中、新たに経営係を創設し、事業経営および今後の計画に当たる職員を集中的に充てることが可能となった。

また、配水池やポンプ施設など、将来を見据えた効果的な施設の改築などの検討に、経験と技術のある職員を充てることが可能となり、昨年度は配水池を全体で3カ所廃止するなど、施設改善による効率化を進めることができた。

【質疑】下水道の水洗化率について、前年度に比べポイントが大きく下がっているが、その要因について伺う。

【答弁】今回大きく下がっているのは、公共下水道の水洗化率の算出方法を変更したためである。

今回より、接続されていない世帯の人口を調べ、本来接続されるべき処理区域内の人口から差し引いて水洗化率を算出したため、昨年度よりポイントは下がっているが、精度的にはこれまでと比べ高くなっている。

第443回 市議会定例会決算審査特別委員会 (9月10日) 意見が分かれた議案の賛否一覧

Table with 19 columns: 委員氏名 (高子秀明, 佐藤龍彦, 伊藤勝美, 澁谷政義, 大野栄光, 沼倉啓介, 高橋鈍齋, 小川正人, 平間知一, 保科善一郎, 佐久間儀郎, 四竈英夫, 大森貴之, 森建人, 角張一郎, 菊地忠久, 佐藤秀行, 松野久郎) and 議決結果. Row 1: 第71号議案 (令和元年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について) 不認定.

※「○」⇒賛成した委員、「×」⇒反対した委員、「欠」⇒欠席した委員、「委」⇒委員長のため表決に加わらない ※決算審査特別委員会は議長及び議会選出監査委員を除く全議員で構成される

# 予算審査特別委員会

第75号議案・令和2年度白石市一般会計補正予算(第5号)から第79号議案・令和2年度白石市下水道事業会計補正予算(第2号)の計5議案について、定例会3日目(9月8日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・保科善一郎、副委員長・角張一郎)は、9月9日に現地を調査し、9月11日に審査を行い、すべての議案について採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

◎令和2年度白石市一般会計補正予算(第5号)

## 総務費

**〔質疑〕** ホワイトキューブNE B化推進改修事業の中の太陽光発電設備設置について、キューブで消費する電力を、不足のないよう常に供給することができるとのこと。

**〔答弁〕** キューブ全体の通常の電気利用は300キロワット以上あるが、太陽光で発電できるエネルギー

**〔質疑〕** 重油削減を考えたとき、最も有効な必要性を感じるのが、スパッシュランドの温水プールではないかと考えるが、キューブのように検討はされなかったのか伺う。

**〔答弁〕** 国の補助金の要件として、重油などの消費量が基準1次エネルギー消費量から50%以上削減すること、また防災拠点の施設になっていることがあげられる。

スパッシュランドの場合、削減エネルギー消費量の要件となる数値を満たすには、給湯に係るエネルギー消費量が大きく、既存のボイラー熱量を電気式の給湯器に改修するとなると、数十台から100台程度が必要と見込まれる。

このことから、スパッシュランドについては機器の費用のみでなく、電気設備の大規模な改修、設置場所、電気料金、保守費用のランニングコストが現在の2倍から3倍になることが想定されており、現実的に難しいとの検討結果になっている。

## 衛生費

**〔質疑〕** オンラインによる妊産婦等相談環境構築業務委託料が計上されているが、妊婦以外にこういった方々の相談を想定されているのか、また新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後も継続していくのか伺う。

**〔答弁〕** 現在のところ想定しているのは、妊婦、出産したばかりの産婦、就学前のお子さんなど、常に保健師が相談に応じている方、また、総合福祉センターにもオンライン環境を整備する予定であるため、家庭児童相談員が相談などに応じている要支援家庭の親などを想定している。

オンラインによる相談は、将来的には保健師を交えた上でグループなどを作り、子育てに関する思いや苦勞を共にする親同士が話し合える場としての実施なども想定しており、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後も引き続き継続していく考えである。

◎令和2年度白石市下水道事業会計補正予算(第2号)

**〔質疑〕** 南町二丁目地内の汚水管移設工事として、工事請負費が計上されているが、何メートルぐらいの工事になるのか伺う。

**〔答弁〕** この工事は、下水道本管の一部が民有地内に設置されていることから、支障となる区間の本管を移設するもので、移設延長は全体で37メートルとなっている。



予算審査特別委員会の現地調査(ホワイトキューブ)

# 市政に 対する 一般質問

## 〓〓〓11名の議員が質問〓〓〓

9月定例会の一般質問は、9月16日・17日の2日間にわたり行われました。質問の要旨は次のとおりです。

**佐久間儀郎** ICT教育の環境整備について 他

**高橋 純斎** 幼稚園問題について 他

**佐藤 龍彦** デマンド型交通システムの導入について 他

**伊藤 勝美** 市長の再選出馬表明について 他

**松野 久郎** 新型コロナウイルス感染症対策に伴う本市の財政状況について 他

**四竈 英夫** 市長選挙出馬に当たつての思いについて 他

**沼倉 啓介** 白石市の財政と公立刈田総合病院の存立について 他

**森 建人** 市長選挙について 他

**佐藤 秀行** 子どもの心のケアハウス運営支援事業について 他

**菊地 忠久** 教育の充実について 他

**大森 貴之** 新型コロナウイルス感染症対策(Withコロナ)について 他

### ICT(情報通信技術)教育の 環境整備について

佐久間 儀郎



〔質問〕全国の学校に

一人一台端末および高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する「GIGAスクール構想」の実現については、

加速化を意識している印象があるが、本市の達成時期は、当初の計画の2023年度を目標としているのか。

〔答弁〕〔教育長〕国から

新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業の推進のため事業の前倒し方針が示されており、本市では今年度中に達成できるものと考えている。

〔質問〕機器調達などハード整備の進捗状況を伺う。

〔答弁〕〔学校管理課長〕

一人一台学習用「コンピューター」は、来年3月までには整備される予定であり、マイクとルーターは10月までに発注を行い、早い時期の納品を進める。カメラはタブレットに備えてついているため、購入予定はない。

〔質問〕安定した無線LANの構築が肝心であると考えますが、進捗状況を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕今年度から学校における大容量のネットワーク環境、無線LAN環境の整備を行い、7月末には完成している。

〔質問〕ソフト面の体制整備はどのようになっているか伺う。

〔答弁〕〔教育長〕教員の教育先進地への視察研修、本市教育アドバイザーを講師とした研修会、

県総合教育センター主催研修会など、研修の充実を図り、教員のスキルアップができる環境を整えていきたい。

また今後のオンライン授業への取り組み状況などについて、保護者に対し、各学校を通して詳細な説明を行なっていく予定である。

〔質問〕オンライン指導における本市の課題を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕環境面の整備は一定程度、年度内に完成するが、教員の中にはオンラインの指導に慣れていない教員もいる。

今年度から本市の教育アドバイザーに就任いただいた方は、この面でも非常にたけており、研修会などを実現させ、ソフト面を含めた充実を図っていきたい。

### 【その他の質問】

◎歯科口腔保健について

### 幼稚園問題について

高橋 鈍 斎



育委員会において第二幼稚園を休園することを議決したことから、令和3年度は第二幼稚園のみ募集する。

〔質問〕今年7月の保護者説明会資料には、1園を休園した場合のサービズ、教育の他、第一幼稚園休園と記されていた。もう既に決めていたのではないか。

〔答弁〕教育長「あくまでも素案で示したものであり、1園に決めていたかどうかは見解の相違と考える。

〔質問〕園舎が平屋であることが最大の安全策と云うが、これは震災だけを考えているのか。

〔答弁〕教育長「記録を確認したが、そのようなことは申し上げていない。安全管理については二園とも大きな違いはないと考える。

〔質問〕園舎が平屋であることが最大の安全策と云うが、これは震災だけを考えているのか。

〔答弁〕教育長「記録を確認したが、そのようなことは申し上げていない。安全管理については二園とも大きな違いはないと考える。

教育委員会では、第二

〔答弁〕教育長「定例教

幼稚園が幼児教育としてより望ましい平屋建てであることから第一幼稚園休園の結論に至ったものであり、多数決で決めるものではないと認識している。

〔質問〕コロナ禍の中、第一幼稚園休園を即撤回し、3密を避けるべきと考える。

また当初、給食がネットワークとし休園を急ぐ理由と議会で説明したが、その真意を伺う。

〔答弁〕教育長「重要なのは、手洗いやうがいなどの感染予防対策を園と協力して進めていくことと考える。

また、給食がネックで休園を急いだと申し上げた事実や認識はない。給食センターとの度重なる協議を経て提供できる案を保護者にお示したものである。

〔その他の質問〕

- ◎スパシユランド問題について
- ◎市長二期4年間の政策について

### デマンド型交通システムの導入について

佐藤 龍彦



事業者の現状について、認識を伺う。

〔答弁〕市長「市内タクシー事業者に確認したところ、ステイホームや観光旅行、ビジネスでの出張などの自粛により、利用者が減少し、大変厳しい状況であると聞いています。

〔質問〕全国・県内各地でデマンド型交通システムが導入されていることについて、所見を伺う。

〔答弁〕市長「デマンド型交通システムは、電話予約など利用者のニーズに応じ柔軟な運行を行う公共交通の二つの形態であり、利用者の需要に応じて時間と路線を柔軟に対応することが可能である。

このことから、中山間地域や集落の点在する地域などの需要において有効であるため、全国・県内の自治体においても導入されていると認識している。

〔質問〕本市のタクシー

〔答弁〕市長「現在、デマンド型交通システムの導入は考えていない。

〔質問〕高齢化を受けて、デマンド型交通システム

〔質問〕本市のタクシー

ムは日常生活に欠かせないものと考えてるが、市民から生活の足を確保してほしいとの声は寄せられているのか伺う。

〔答弁〕市長「各地区において、高齢者の移動手段、生活の足として、多くの課題があるという話は聞いている。

高齢者の生活の足の確保として、高齢者福祉部門で実施している高齢者タクシー利用助成事業や、高齢者等地域ささえ愛互助活動支援事業などの制度の活用も有効と考える。

デマンド型交通システムを導入するには、厳しい財政状況の中、多額の予算が必要となることから、総合的に判断しなければならぬと考えている。

〔その他の質問〕

- ◎スパシユランドについて
- ◎本市の教育について
- ◎女川原発再稼働について



### 市長の再選出馬表明について

伊藤 勝美



〔質問〕市長が8月末に掲げたユーチューブでは、公立刈田綜合病院について「公設民営化」「周産期医療の復活」「麻酔科、整形外科医師の招へい」などに触れられてくる。

〔公設民営化〕については、蔵王町長、七ヶ宿町長、特別管理者、病院長も反対しているが、その理由について、市長はどのように理解しているのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕管理者と市長の立場は違う。また、おのおの立場も違うので、明確な理由、本質の全てを理解しているわけではない。

◎空き家・空き地の樹木と雑草除去について

〔質問〕少子高齢化や核家族・住居環境の多様化などで、独り暮らしの高齢者が増え、施設に入居したり、亡くなったりして、家と土地が取り残される状況が市内でも散見される。

また、住民から、隣の空き地・空き家から草木や枝木が繁茂して困っている、樹木や雑草除去について心配の声や相談を受けることがあるが、市の対応状況を伺う。

〔答弁〕〔建設課長〕空き家の相談は、防災、生活環境、景観など多岐にわたることから、自治会や近隣住民から情報収集を行い、関係各課と連携しながら対応していきたい。

〔答弁〕〔生活環境課長〕空き地については、苦情の多くは立ち入り調査と指導の段階で改善している。

また、秋冬に雑草が枯れ、勧告に至らない現状もあるが、管理者が対応できる範囲で対面しながら指導を継続し、解決策を模索していきたい。

〔質問〕〔白石市空き地の適正管理に関する条例〕では、指導、勧告までとなっているが、行政代執行を可能にする条例への改正について見解を伺う。

〔答弁〕〔生活環境課長〕行政による代執行は、一時的な解決方法としては有効であるが、所有者自身が適正管理の意識を持たなければ良好な状態を維持できない。

このことから、現在、条例の改正は考えていないが、条例の目的を踏まえ、地道な行政指導による解決を目指し、丁寧に対応していきたい。

### 新型コロナウイルス感染症対策に伴う本市の財政状況について

松野 久郎



〔質問〕現在の本市の経済状況について、どのように分析しているのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕新型コロナウイルスは、本市においても、多業種、広範囲にわたる経済活動に非常に大きな影響を与え、大変厳しい状況であると認識している。

〔質問〕今年度および来年度の本市の税収について、どのように分析し、どのような対処を考えているのか。

〔答弁〕〔市長〕市税への影響については、現時点で収納状況に落ち込みは見られないことから、今年度の影響は限定的

なものであると見込んでいる。

来年度については、所得の減少、売上高が減少している中小事業者に対する令和3年度の固定資産税などの軽減措置により、市民税などが減収になると予測している。

〔質問〕歳入の減少を考えたとき、今年度および来年度の歳出抑制を検討しているのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕今年度の歳出抑制については、現時点で収納状況に落ち込みは見られないことから、既に中止となったイベントなど以外では検討を行っていない。

来年度は、税収が確実に減る予測であることから、経費の削減、合理化、改善に取り組むとともに、財政調整基金を有効に活用し、令和

3年度当初予算編成にあたっていきたいと考えている。

◎鳥獣被害対策について

〔質問〕近年、サルによる農作物や家屋への被害が増えている。行政として何らかの対応が必要と考えるが、いかがか。

〔答弁〕〔市長〕二ホンザルが、今まで食べたことのないものを食べることで田畑を荒らし、町なかまで出没を繰り返すようになる。

このことから、簡単に食べ物が手に入らないよう、今後とも鳥獣被害対策実施隊による銃器での追い上げや捕獲のほか、電気柵や防護柵の設置に対する補助を継続して行なっていきたいと考える。

### 【その他の質問】

◎スパシミュランドについて

◎旧白川中学校・南中学校の跡地利用方法について

# 市長選挙出馬に当たっての思いについて

## 四 竈 英 夫



【質問】市長は再び市長選挙に立候補を表明されたが、4年間を振り返っての思いを伺う。

【答弁】【市長】この4年間、「市民の笑顔あふれる白石」の実現に向け、市政課題を先送りすることなく積極果敢にチャレンジしてきた。

しろいしサンパークのオープンや、スマートインターチェンジの地区協議会を開催できたことは、公約実現の一つと考えている。

また、ふるさと納税については、平成29年度の1千482万円から、令和元年度は5億6千473万円へと大幅に増額させることができた。

教育については、慶応義塾大学と埼玉県の共同による学力・学習状況調査をはじめ、さまざまな施策を実施することができた。

任期中は、新型コロナウイルス感染症への対応、昨年の台風19号被害の復旧、第六次白石市総合計画の策定など、一つ一つ丁寧に向き合ってきた。

【質問】本市の将来像をどのように描いているのか伺う。

【答弁】【市長】人口減少、少子高齢化が進む中、持続可能なまちであるため、地域経済の発展を図り、強固な財政基盤を構築する必要がある。

このことから、企業誘致を進め、活力ある地域社会の形成を図るため、未来の白石市を担う人材、地域を牽引する人

材を育成し、人づくりによるまちづくりを進めることが重要であると考えている。

### ◎児童・生徒の水の事故について

【質問】8月初め、柴田町の川で中学生が亡くなる悲しい事故があった。本市では水の事故を防ぐために、どのような指導をされたのか伺う。

【答弁】【教育長】6月の定例校長会において、児童生徒の水難事故防止について注意を喚起し、指導の徹底を指示したほか、夏休み前にも農業用水路、ため池、河川などの危険箇所を確認し、安全指導の徹底を図るとともに、水難危険箇所

の巡視を行なってきた。

### 【その他の質問】

- ◎長期休校による児童生徒への影響について
- ◎来年の卒業式について
- ◎交通安全対策について

# 白石市の財政と公立刈田総合病院の存立について

## 沼 倉 啓 介



【質問】本市にとって避けて通れない課題、それは、公立刈田総合病院問題である。本市になくしてはならない病院だが、当院は本市の財政状況に大きく左右されている。

現在、刈田総合病院とみやぎ県南中核病院の区域が重点支援区域として選定され、国からの技術的および財政的支援を受けるとともに、両病院の医療機能分化の協議が進められている。

市長は、公設民営という対案を示し、刈田総合病院の存立を助け、市民に医療を供するこの連携プランに疑念を

お持ちのように見えるが、その最たる要因はなにか。

【答弁】【市長】疑念は一切抱いていない。

この連携プランは絶対に必要であり、何としても実行し、中核病院との連携を進めていく必要がある。

しかし、同時に刈田総合病院単体として、企業体として持続可能な病院となる仕組みをつくり上げていくことも大変重要であると考えている。

【質問】東北大学医学部は、民間が絡んだ場合は協力できないという議決を機関決定されている。民間が絡んだ考えを持てば、絶対にこの連携プランは前に進まないと思われるが、いかがか。

【答弁】【市長】全国のさまざまな例も参考にし

ながら、引き続き仙南の地域医療を守るために、東北大学、宮城県からのご指導を賜りたいと考えている。

ただ、本市の財政状況において、これまでのような、例えば一般財源の10パーセントを超えるような非常に高い負担割合で拠出することは、どう考えても無理である。

【質問】繰り出しのやり方や運営の数字的な打ち合わせ、相談が今までなかったように感じられるが、いかがか。

【答弁】【市長】病院との話し合いについては、幾度となくさせていたが、埋まらない溝があった。

【質問】連携プランの基盤をつくりつつ、同時並行で本市の負担割合の見直しを検討していくべきではないか。

【答弁】【市長】創意工夫により、将来に多大なる負担を残さないよう、持続可能な病院をつくり上げていかなければと考えている。

### 市長選挙について

森 建人



〔質問〕選挙は市民が政治に参加できる重要な機会である。

10月に市長選挙が行われるが、過去の投票率は、昭和59年で90.81%、平成12年で69.04%、前回の平成28年で59.06%と下がってきており、このまま投票率が下がり続けると、選挙結果が必ずしも民意を反映しているとは言えなくなる。

〔答弁〕〔選挙管理委員会事務局長〕手指用や記載台用などの消毒液、職員などにはマスクや

フェイスガード、ゴム手袋を準備し、投票者には消毒済みの鉛筆を使用してもらう。

投票者数の多い投票所には、ビニールカーテンスタンドを置くことや、受付に整列担当職員を配置することも考えている。

期日前投票所は大会議室に変更し、入場券の裏面に期日前投票宣誓書を印刷し、事前に記入していただくことで待ち時間の短縮を図る。

併せて、公用車による巡回や広報しろいしへの掲載により周知を行うこととしている。

〔質問〕投票所が災害により、避難所として開設された場合の対応について伺う。

〔答弁〕〔選挙管理委員会事務局長〕総務省より、建物内で投票所と避難所を分割し、両立

して行うよう通知されており、第一小学校、第二小学校、鷹巣コミュニティセンター、ホワイトキープ、各公民館が投票所と指定避難所が重複している。

危機管理課と協議の上、災害の状況や建物の規模により、両立または指定避難所の変更を行うなどで対応したい。

〔質問〕投票率の向上策について伺う。

〔答弁〕〔選挙管理委員会事務局長〕投票について関心を持ってもらう機会として、高校生の選挙事務体験を継続して行う。

また、市内に本社がある企業に対し、宮城県選挙啓発サポーターに登録いただく。

さらに、市内小売店の店頭で啓発グッズを配布するが、新型コロナウイルス感染症防止対策を整えて実施する。

### その他の質問

◎GOOTOトラベルキャパシティについて

### 子どもの心のケアハウス運営支援事業について

佐藤 秀行



〔質問〕平成28年度から実施され、今年度で最終年度を迎える県の「みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業」は、心の問題から生じる不登校や不登校傾向、いじめなどにより、学校生活に困難を抱えるようになった児童生徒の学校復帰や自立支援として、市町村が行う体制整備を支援するというものである。

〔子どもの心のケアハウスの果たす役割は大きいものがある。本市においても、不登校問題は喫緊の課題であり、次年度以降も継続して事業を進めて

いただくたいと考えるが、見解を伺う。〕〔答弁〕〔教育長〕本市のケアハウス事業は、不登校だった児童・生徒が学校復帰を果たすなど一定の成果を挙げており、複雑化、多様化する課題に対応するためにも、その果たす役割はますます重要になっている。本市の課題の一つである不登校問題に対応するためにも、ケアハウスは何らかの形で存続していきたいと考えている。

〔答弁〕〔市長〕本市にとって、この事業は必要なものと考えている。子どもたちが安心して学校に通うために、さまざまな支援の手は重要であり、県にも強く要請しながら、この事業の重要性を強く受け止め、検討していきたいと考える。

〔答弁〕〔教育長〕本年度の両事業が中止となったのは本当に残念である。派遣を目指して頑張っていた中学生の心情については、重く受け止めている。来年度の実施計画については、このことも考慮しながら検討していきたいと考えている。

### ◎各種交流事業について

〔質問〕本市の将来を担う子どもたちが、他国との歴史や文化の違いを理解、尊重し、共に生きる力、コミュニケーション能力を身に付けることをねらいとして実施する予定であった、新規事業の中国上海市への中学生派遣、継続事業のオーストラリアへの中学生派遣が、今年度は両事業とも実施されなかった。

次年度の取り組みについて、一人でも多くの生徒が貴重な体験ができるよう、配慮ができないものか伺う。

〔答弁〕〔教育長〕本年度の両事業が中止となったのは本当に残念である。派遣を目指して頑張っていた中学生の心情については、重く受け止めている。

来年度の実施計画については、このことも考慮しながら検討していきたいと考えている。

### 教育の充実について

菊地 忠久



〔質問〕本市が埼玉県と

共同で取り組んでいる学力テストでは、好奇心、忍耐力、社交性などの非認知能力にも注目し、質問項目により子どもたちの実態を調査している。

この数値化できない非認知能力の調査結果をどのように分析し、活用しているか伺う。

〔答弁〕教育長「学力ととりわけ関係が深いであろう非認知能力として、自制心・自己効力感・勉性の3つに絞っている。

この3つが学力と極めて高い相関性があるということが、近年の研究で明らかになっており、文部科学省は、社会経

済的な要因に課題のある児童・生徒の学力向上にも非認知能力を伸ばすことで、良い影響が出せる可能性を指摘している。

今年度の結果が届き次第、昨年度のデータと比較しながら、市全体の傾向や学力と非認知能力の項目との関係性について分析を行い、指導とともに行政施策にも活用したい。

〔質問〕非認知能力を育み伸ばしていくことも幼児教育の充実につながるかと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕教育長「できるだけ幼児期から育むことが学力との関係で重要だということがわかってきている。

同年代、異年齢の関わりを増やし、学ぶ環境を整え、また、幼児教育

を専門とする大学と連携して社会性や自立心、自己効力感を意図的に育てていきたいと考える。

〔質問〕文部科学省は令和4年度から小学校の高学年に教科担任制を導入する方針を示した。小学校の教科担任制導入に対する所見を伺う。

〔答弁〕教育長「教科などの専門性を活かした質の高い指導の実現が図られ、また、より多くの教師の目で児童一人一人を見ることができ、生徒指導にも有効であると考ええる。

教科担任を効果的に配置することで、教員にも空き時間が生まれ、その時間に準備や事務整理を行うことで、児童と向き合う時間をつくり出すなど、働き方改革にも一定の効果があると考ええる。

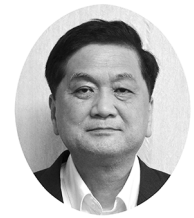
#### 【その他の質問】

◎飲食店支援について

◎山田市政について

### 新型コロナウイルス感染症対策 (Withコロナ)について

大森 貴之



〔質問〕経済復興の観点

から、「GOTOキャンペーン」などの施策により、人の移動が多くなると考えられるが、それに伴い感染の拡大も懸念される。

本市において、感染者が確認された時の公立田総合病院の対応能力について伺う。

〔答弁〕市長「感染症病床は4床あり、4人の受け入れが可能である。感染症患者の受け入れに備え、感染症病床を専用病床とし、隔離する区域を設けるため、別に1病棟(52床)を休止している。

〔質問〕感染者が発生した場合、県との連携はどのようになって

いるのか伺う。

〔答弁〕市長「感染症の対応は都道府県知事が行うことになっており、本市を所管する仙南保健所が主導的役割を果たすため、保健所主催の市町村担当者会議や仙南地域災害医療連絡会議などにおいて、情報の共有を図っている。

〔質問〕感染者に対する誹謗中傷や差別などが後を絶たないとの報道がされている。

予防対策を講じても、日常の中で感染する可能性があることを市民に周知しておくことが重要と考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕市長「市の公式フェイスブックやホームページなどで、「医療従事者や感染者に対して偏見や差別、中傷が絶

対にあつてはならないもの」と明記しており、今後、感染者が確認されても、その方の特定や風評被害の拡散につながる行動は行わないよう、市民の理解と協力を重ねて呼びかけている。

〔質問〕コロナ感染症に伴う誹謗中傷や差別は、教育現場でも発生している。

本市ではさまざまな対応をしていると思うが、改めて教育長の見解を伺う。

〔答弁〕教育長「新型コロナウイルスと共に生きていくことを前提に、学校でのさまざまな機会を通して、「このウイルスは誰もが感染する可能性があり、感染した人が悪いのではない。感染した人に、差別やいじめは絶対にしてはならない」とことを継続して呼びかけるとともに、発達に即した指導をするよう今後も指示していく。

# 討論

## ◎第71号議案・令和元年度 白石市一般会計及び特別会計 歳入歳出決算の認定について

定例会最終日(9月18日)に行われた討論の主な内容は、次のとおりです。

### 反対 伊藤 勝美

令和元年度決算は1年間の行財政運営の結果であり、多くの成果があったことは事実であることから、その成果を否定するものではない。

しかし、決算は予算に基づいて執行された結果であり、財政指標だけで市民の暮らしがよい結果を生んでいるかどうかは、必ずしも連動していないと考える。

そこで、地方自治体の役割である「住民の福祉の増進」が市政の運営において最大限に図られたのかという点に判断の基準を置かなければならないと考えている。

令和元年度の市政運営において、最も特筆すべき問題は、

市民への説明不足により端を発した、白石市第一幼稚園休園に関する請願署名、スパシシランドしろいし休館に関する署名活動、公立刈田綜合病院の整形外科の存続を求める署名活動と公設民営化があげられる。

特に、公立刈田綜合病院については、極端な負担金・補助金の減額が経営悪化を招き、病院職員のみならず、地域住民に大きな不安と懸念を抱かせた。

平成31年度当初に28名いた医師は、9月1日現在では22名と大きく減っており、麻酔科や整形外科医師などの退職により、救急業務にも大きな支障をきたしている。

また、公設民営化については、刈田綜合病院を支援する東北大学や宮城県、そして白石市外二町組合を構成する蔵王町、七ヶ宿町、医療の現場で日夜地域住民の命と健康を守っている病院長が、明確に反対の意思表示をしている。

本市は、白石市外二町組合、公立刈田綜合病院の大株主である。刈田綜合病院は、地域医

療にはなくてはならない、地域住民の命と健康を守る大切な医療機関であり、市政運営の一番の柱は、そこに財政や人的支援を傾注すべきことであると考えている。

今回の決算の認定については、予算の適正な執行にあたることは概ね認めるが、市民への説明不足により端を発した3つの問題、特に刈田綜合病院の問題は、市民にとって最も重要なことであり、見過ごすことはできない。

つまり、市政運営において市内に混乱を招き、結果として、市民に大きな不安と懸念を抱かせることとなった決算であることから、認めることはできない。

また、今後の市政運営において、市民生活に影響を与える重大事項については、市民の意見を十分に聞き、拙速な判断をせず、今以上の丁寧な説明をすることを強く求めるものである。

以上の理由から第71号議案に反対である。

### 賛成

佐久間 儀郎

本市では、高齢化が進行する中、扶助費をはじめとする社会保障費、民生費、衛生費などの経常的経費の割合が増すばかりで、近年は思うほどに投資的経費に手当てをする余裕がない状況が続いている。

そうした厳しい財政環境下において、市は「白石市行財政改革推進計画(集中改革プラン)(第四次改訂版)」に基づき、効率的で質の高い行政運営と健全財政の維持に積極的に取り組んだ決算であると考えている。

これは、一般会計の主要な財政分析指標において、財政力指数、経常収支比率、公債費比率など、それぞれが前年度よりも良化していることから認められるものである。

一般会計において、実質単年度収支額は3億3千420万1千余円で、平成27年度以来の黒字計上となった。

その要因の一つは、監査意見書が指摘するように、数力年度にわたりに行われてきた財政調整基金の取り崩し額がゼロ円

であったということである。結果として、財政調整基金の年度末残高は22億6千57万9千円になっている。

財政調整基金は、経済の変動などによる財源の不足、災害対策および市債の償還の他、必要と認められる事件に要する経費に充てることにより、市政の調整を図り、もってその健全な運営に資するために設置されている。

令和元年度は、昨年10月の令和元年東日本台風による被害への応急復旧措置などにおける経費の財源に充てられたことは記憶に新しく、財政調整基金条例の設置目的に則して、的確で良好な財政運営であったと言える。

さらに申し上げれば、収支末済額は、一般会計および特別会計を合わせて5億7千811万1千余円で、前年度と比べ0.71%、413万8千余円減少している。

これまで増加傾向にあったが、滞納者への督促や催告状の送付、納付の利便性を高めた夜間収納窓口の浸透、そして滞納者

への納税相談、訪問徴収や強制執行などの実効性ある地道な徴収対策が功を奏したものと捉えている。

不納欠損額を見ると、一般会計では前年度と比べ1億924万7千余円、率にして93.64%減少し、また特別会計では、前年度と比べ208万1千余円、率にして16.49%減少している。

負担の公平、歳入の確保の観点から、生活困窮者などに対する滞納処分執行停止や時効消滅による処分が滞納の実態に即し、地方税法に基づいて慎重かつ厳正的確になされたものと考ええる。

令和元年度は、第五次白石市総合計画の9年目の年であった。総合計画に掲げた施策を着実に実施するとともに、白石版地方創生総合戦略に基づき、教育環境の整備、移住定住の促進、雇用の創出などの分野で独自性を持った施策を多面的に実施され、限られた予算を効率的に、そして効果的に執行された。

特に、農商工連携を核とした賑わい交流拠点「しろいしサン

パーク」において相次いで施設をオープンさせ、地域産業の活性化や交流人口の拡大、子育て支援などに向けた地方創生の核となる事業を市民とともに積極的に推進されたことが認められ、大いに評価されるものである。

賛成 菊地 忠久

昨年度は、一般会計の実質単年度収支は3億3千420万1千円の赤字となり、特別会計では、実質収支額は1億5千675万6千円となるなど、健全な財政運営がなされている。

また、不納欠損額については、自主納付を促す従来の方針から、滞納繰越者を増やさない方向へと方針を転換、適切な市税徴収に取り組んだ結果、前年度より1億924万7千円も減少し、大幅な改善が見られたことは、大いに評価するところである。

さらに、新たな財源の確保策として、ふるさと納税の受け入れ額を5億円以上と大幅に増加させる成果をあげ、また、

当初見込まれていた財政調整基金の取り崩しはゼロとなり、むしろ積み増しにより基金残高を増やしている。

近年の巨大化する自然災害による緊急事態やコロナ禍の影響などにより、これまで通りの税収などが見通せない中、ここ数年続いていた財政調整基金の減少に歯止めをかけ、逆に増額できたことは、非常に評価できる。

第五次白石市総合計画について、個別の施策に目を向ければ、まず、令和元年度を「教育改革元年」と位置づけ、教育環境の充実に取り組んだことについては、授業改善のPDCAサイクルがおおむね確立されたことから、今後の学力向上に期待が持てる。

また、昨年4月におもしろい市場がオープンし、各施設との連携や相乗効果により賑わいの創出が図られたことから、さらなる賑わいと地域活性化を望むものである。

公立刈田総合病院については、病院運営のため一定の負担は必要であり、現実的となった財政破綻を回避するための資

金注入もやむを得ない。

しかし、刈田総合病院は慢性的な赤字経営が続いており、資金ショートによる経営破綻の恐れがある現況を脱しなければ、資金注入は一時しのぎでしかなく、根本的な解決とはならない。また、財政規模に見合わない多額の繰り出しを続ければ、行政サービスの低下と白石市本体の財政破綻に繋がりがかねない。

そのためにも刈田総合病院の経営改善は急務であり、突出して大きな出資比率を持つ本市が先頭に立って、病院の大胆な経営改善・改革に取り組んでいただくよう、強く要望するものである。

本決算は、限られた財源の中で、時代の要請や地域の要請にこたえるべく、選択と集中によるメリハリの利いた各種施策が着実に実施されており、予算の不正な使用や目的外の使用などもなく、適切な予算の執行と健全な財政運営がなされたものと認められる。

以上の理由から第71号議案に賛成である。

## 12月定例会は、12月4日(金) 午前10:00開会予定です。

定例会は、市の予算や決算、条例など、市民のみなさんに深く関わりのある議案が審議されます。また、市議会ではインターネットによる中継を行なっています。本会議などをライブ中継や録画映像で視聴できます。

- 8月臨時会の傍聴者数 2人
- 全員協議会の傍聴者数 0人
- 9月定例会の傍聴者数 32人
- 8月・9月の中継・録画視聴者数 2,875人

# 意見書

定例会最終日(9月18日)、議員提案として意見書2件が上程されました。

提出議員による提案理由説明の後、1件は全会一致で原案のとおり可決、1件は質疑を経て、採決の結果、賛成多数で可決され、意見書は関係機関に送付されました。

## 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により、わが国は戦後最大の経済危機に直面しており、地域経済にも大きな影響が及んでいる。

地方自治体では、医療介護、子育て、地域の防災・減災、雇用の確保や、長期化する感染症対策にも迫られ、地方財政は巨額の財源不足を生じ、これまでにない厳しい状況に陥ることが予想される。

よって、令和3年度地方財政対策および地方税制改正に向け、地方の安定的な財

政運営に必要な地方税、地方交付税などの一般財源総額を確保することなど、5つの項目を確実に実現されるよう求めることについて、関係大臣および国会に意見書を提出するものである。

## 新型コロナウイルス感染症拡大で落ち込む景気対策のため消費税5%への減税を求める意見書

新型コロナウイルス感染症の拡大は、地方経済においても深刻な影響を与えている。

政府においては、経済活動に与える悪影響を最小限に食い止めるため、数度の補正予算において施策を講じているが、個人事業主や中小企業経営者、被雇用者は、経済負担に耐え抜く努力を行なっても、所得低下や雇用不安などが避けがたくなっている。

内閣府の4～6月期の実質GDP改定値は、年率換算でマイナス28.1%で戦後最大のマイナス幅となり、GDPの約60%を占める家計最終消費支出(個人消費)はマ

イナス7.9%と前期比、前々期比よりさらに落ち込み、实体经济に大打撃を与え、経済成長に深刻な影響を及ぼしたことが表れている。

新型コロナウイルス感染症拡大による新たな経済危機の状況を鑑み、世論、さらには社会経済活動の平常化、景気対策のため、消費税5%への減税措置を行うことが必要であると考ええる。

減税を行うことは、国民所得を引き上げ、国民の購買意欲や企業の設備投資を増やし、雇用を創出することができ、着実な経済成長を実現させ、結果として社会保障の原資を増やすことにもつながる。

また、消費税減税による短期的な地方財源への影響は避けられないが、政府による地方公共団体に対する財政措置も重ねて行うことを求める。

一日も早く感染症拡大収束のための措置を講じると同時に「消費税5%への減税」の早期実現に向け、前例のない抜本的な内需主導型の経済成長を促す政策議論を進めることを強く求めるものである。

# 8月臨時会

第442回市議会臨時会が、令和2年8月5日に開かれ、市長提出議案4件の審議を行い、全会一致で原案のとおり可決しました。各議案の内容は次のとおりです。

なお、意見(賛否)が分かれた議案はありませんでした。

## ◎白石市農地等災害復旧事業分担金条例

原案可決

豪雨や地震などの自然災害により、甚大な被害を受けた農地や農業用施設などの災害復旧事業を市が行う場合、受益者負担の観点から、その事業費に係る分担金を徴収するため、既存の条例の全部を改正するものです。

## ◎令和2年度白石市一般会計補正予算(第4号)

原案可決

主な内容は、国の第2次補正予算成立に伴い配分されている「新型コロナウイルス感染症

対応地方創生臨時交付金」を活用し、54の事業を実施するため、これまでの歳入歳出予算にそれぞれ5億7千477万3千円を追加し、予算の総額を191億8千612万円とするものです。

## ◎令和2年度白石市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

原案可決

主な内容は、新型コロナウイルス対策事業のため、総務費を22万6千円増額し、予算の総額を37億9千398万2千円とするものです。

## ◎令和2年度白石市介護保険特別会計補正予算(第2号)

原案可決

主な内容は、新型コロナウイルス対策事業のため、総務費および地域支援事業に係る経費を133万9千円増額し、予算の総額を37億627万7千円とするものです。

# 人事

9月定例会において、次のとおり選任・推薦することに同意しました。

## 【教育委員会委員】

(任期：令和2年10月1日～令和6年9月30日)

小室 秀一氏

## 【人権擁護委員】

(任期：令和3年1月1日～令和5年12月31日)

佐藤 裕美子氏

樋渡 佐智子氏

## スマートインターチェンジ設置を国土交通省へ要望

7月3日、スマートインターチェンジ設置推進特別委員会の四竈英夫委員長が、昨年に引き続き、山田市長と共に国土交通省を訪れ、道路局ほか関係各所に「スマートインターチェンジの整備に関する要望書」を提出しました。

要望先では、新型コロナウイルス感染症で落ち込んだ地域経済を回復させるためにもスマートインターチェンジを早期に事業化し、一日でも早い供用が図られるよう求めました。

**白石市議会会議録を公開しています**

白石市議会 会議録 **検索**

市議会のホームページに会議録を公開しております。キーワードでの検索のほか、会議・発言者・期間でも検索できます。どうぞご覧ください。



要望書提出の様子（国土交通省道路局）

### 第443回 市議会定例会

### 意見が分かれた議案の賛否一覧

議決日	件名	議員氏名	議決結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
				高子秀明	佐藤龍彦	伊藤勝美	澁谷政義	大野栄光	沼倉啓介	高橋鈍斎	小川正人	平間知一	保科善一郎	佐久間儀郎	四竈英夫	大森貴之	森建人	角張一郎	菊地忠久	佐藤秀行	松野久郎
9月3日	第69号議案 教育委員会委員の任命について		同意	×	×	○	○	×	×	×	議	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
9月18日	第71号議案 令和元年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について		認定	×	×	×	○	○	×	×	議	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
9月18日	議提第8号 新型コロナウイルス感染症拡大で落ち込む景気対策のため消費税5%への減税を求める意見書		原案可決	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×

※「○」⇒賛成した議員、「×」⇒反対した議員、「欠」⇒欠席した議員、「議」⇒議長のため表決に加わらない

## 編集後記

9月定例会では、令和元年度の決算審査が最重要案件でありました。決算の認定とは、予算の適正な執行とともに、その結果としての行政効果を確認するものであり、市政運営の評価でもあります。

審査ではさまざまな意見が交わされ、議会としては認定されました。ただ刈田総合病院への一般会計からの繰入金については、もっと議論が必要であったと思われました。

今後、新年度予算にどう生かされるのかを注視してまいります。今年も残すところ2カ月余りとなりました。時節柄どうかご自愛ください。

議会広報委員会  
伊藤 勝美

### 議会広報委員会 委員

- 委員長 四竈 英夫
- 副委員長 平間 知一
- 委員 高子 秀明
- 委員 佐藤 龍彦
- 委員 伊藤 勝美
- 委員 高橋 鈍斎
- 委員 大森 貴之
- 委員 森 建人
- 委員 角張 一郎